

Campus Magazine

vol.34

AUTUMN
2015



今年の大学祭は、前夜祭も含め10月9日、10日、11日と3日間わたって開催いたしました。日曜日は、雨が少し降りつつもなんとか天気を保ち、無事に終了することができました。オープニングアクトでは様々なサークルが混じり合い、大学祭に新たな色が加わったと思います。また、ヘルスリテラシーといった、健康に対するの考えを深めようという企画もあり、保健大の色を出しながらも、学生の色を混ぜ、色とりどりの学園祭になったかと思えます。

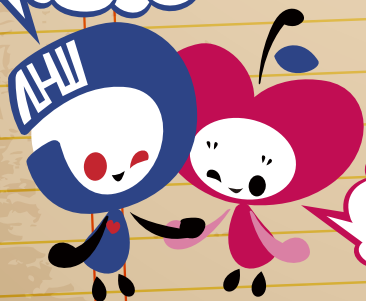
学祭の実行委員で参加した方、サークルの出店で参加した方、様々な形で参加した方、大学祭が気になってきた方、関わってくれた方皆様が色々な場面で楽しめる場所があればと思いうる学祭をつくりあげてきました。楽しめた部分や、準備が至らず楽しめきれなかった部分などあったと思います。けれども、各々が学園祭を盛り上げてくれて、楽しく終えることができました。こういった企画の大変さ、面白さが後輩に伝わってほしいなと思います。

多くの学生や先生方、地域住民の方々の協力を得て、今年の大学祭を終えることができました。企画に参加してくれた学生や来てくださった市民の方々に、運営に協力して下さった方々ありがとうございました。

大学祭実行委員長 篠原 直斗



大学キャンパスが
おいしい、楽しい笑顔で
あふれていたよ！



モーリーとリンリン®

来てくれた皆さん、
本当にありがとう！

サークル活動

津軽三味線サークル

私たち津軽三味線サークル員は、全員がこの保健大に入学してから三味線を始めました。毎日三味線に触れることを楽しみに、青森の伝統の曲を身に付けていくことに喜びを感じて活動しています。また、地域の皆様からのご依頼を受け、公民館や老人ホーム等で演奏もさせていただいております。

この充実したサークル活動の中で、今年5月に青森市で開催されました津軽三味線日本一決定戦という大会に参加させていただきました。この大会には毎年参加させていただいていますが、今年はこのサークルが創

立して初となる、優勝という結果を残すことができました。この結果は、今までサークル員に三味線を教えてくださっている今美也子先生をはじめとする轡会の皆さん、今までサークルの活動を続けてくださった先輩方、私たちに三味線演奏の場を提供いただいた地域の皆様など、日々の私たちサークルの活動に声援を送ってくださった皆様のご支援があって実現させることができました。心より感謝申し上げます。

これからもこの結果に満足せず、青森の伝統である津軽三味線という芸を日々磨い



て参ります。今後とも津軽三味線サークルをどうぞよろしくお願いたします。

キャリアサポート研究会

私たちキャリアサポート研究会（以下キャリアサポ）では、県内の公立高校を訪問し、ワークショップを行っています。

ワークショップの内容としては、高校生が自分のことを見つめなおす機会を作ってみたり、将来のことについて一緒に考えたりするという内容のものを実施しています。

キャリアサポは保健大だけではなく、県内の各大学合同で行っています。ワークショップを行う際は、保健大以外の大学生も含めた5~8人で1つのグループを作っ

て1つの高校のワークショップ作りを担当します。そのグループが作り上げたワークショップにキャリアサポメンバー20~50人が参加し、高校生と一緒に取り組んでいきます。

キャリアサポは、保健大以外の大学生も参加するという都合上、青森県社会教育センターを活動の拠点としています。社教センターで、ワークショップのリハーサルやメンバーの大学生同士の会議などを行っています。キャリアサポの魅力は、高校生との活動を通して、自分自身で考



える力が身につく点だと思っています。

これからもキャリアサポは、県内各地で高校生の背中を一押しするために頑張っています。

りんごの会

こんにちは。わたしたちりんごの会は、主にひとり暮らしの高齢者を対象とした健康教育を行う活動をしています!これは昨年度から継続して行ってきた活動ですが、今年度は健やか力向上サポート宣言に伴う、「健やか力(ヘルスリテラシー)向上サポート活動」として採択され、「地域のつながりで健やか力を向上させよう運動」というテーマのもと、これまで以上に活動内容を充実させながら、楽しく活動しています。

8月は青森市内の2つの地区、9月は1地区で町内会のお食事会に参加し、運動を

テーマとした健康教育と簡単な体操を行ってきました。3月には2地区での実施を予定しています。健康教育が終わった後でもその内容を思い出し継続して実施してもらえるよう、うちわやタオルなどオリジナルの参加グッズを作成するなどの工夫をしています。今後は体操の冊子を作成しようと考えています。この活動を通して、大学生のうちに地域で生活している高齢者と関わり、卒業後の職業活動に役に立つ貴重な経験ができます。そして、地域の高齢者の方が健康づくりに関心をもってもらえることはとても嬉し



いことです。みなさん、りんごの会に入って、それぞれの専門性を活かしながら、楽しく活動しましょう!!!

私たち SNS サークルは、3 年前に社会福祉学科の 4 年生が中心となり、非公認のサークルとして設立されました。設立当初の主な活動としては、サッカーやバスケット、バドミントンなど色々なスポーツを行っていました。現在は、メンバーも増え、正式にサークル化し、フットサルを中心にを行っています。県内の病院のデイケアでフットサルを行っているチームと、月に 1~2 回交流戦をし、障害者と交流しています。また、カラースカップという大会にも参加しています。青森県の病院関係者・

精神障害者との交流を行い、今では 8~9 チームほど参加し、90 名近くの方が大会に参加しています。

SNS サークルのメンバーの、大半がフットサル初心者です。また、男子だけではなく、女子のメンバーも多いです。「みんな楽しく」をモットーに、楽しく練習しています。

普段、なかなか接することが少ない精神障害者と交流でき、貴重な体験ができますし、同時に体も動かすので、勉強にもなり運動にもなります。これからも、この



ようなつながりを忘れずに、活動を続けていきます。

表彰報告(日赤)

平成27年9月1日 青森県赤十字血液センターから感謝状が授与されました

本学では、年3回、本学を献血会場に提供し、学生や教職員が積極的に献血に協力しています。

また、サークル「めいと」は、献血運動の推進に向け、学内外で、献血協力の呼びかけ、ピラ配り、献血推進協議会への参加等、積極的に活動しています。

さらに、今年度は新たに、青森県赤十字血液センターの提案のもと、学食(株式会社城ヶ倉観光)と協力し、血液に良いメニューを提供する「献血フェア」を開催しました。「献血フェア」はマスコミにも取り上げられ、青森県赤十字血液センターが進める献血運動の協力推進に対する青森県民の注目や理解の促進にもつながったとのことでした。

これら日頃の献血運動に対する協力活動の功績が評価され、感謝状が授与されました。



青森県赤十字血液センター柴崎所長、上泉学長、サークルめいと代表高木さん(学長室にて)

いただいた感謝状と記念品の朱肉です。

オープンキャンパス

夏本番の 8 月 9 日(日)にオープンキャンパス 2015 が開催されました。猛暑にも関わらず、県内外から多くの高校生・受験生、保護者の方にご参加いただき、キャンパスは賑わいました。

オープンキャンパスは保健大学を目指す高校生・受験生の皆さんにホームページや大学案内では分からない教育や研究などを紹介し、本学への理解を深めていただくために毎年開催しています。

各学科の紹介、興味深い模擬講義、趣向を凝らした体験・見学コーナー、入試・就職状況の説明の他、相談コーナーやキャンパスツアーなど在学生ボランティアが中心となり、様々なプログラムを用意しました。参加者と学生、教員とが交流する様子が多く見られ、見て触れて実感し、保健大学の魅力を感じ取っていただけたのではないかと考えています。



(看護学科)「シミュレーターでの看護体験」の様子です。白衣を着ているのは学生ボランティアの皆さんです。



(理学療法学科)「物理療法コーナー」では電気や光線、あるいは水などを用いた治療機器を体験してもらいました。



(社会福祉学科)「ミニ高齢者疑似体験」では専用の装具を身に付け、高齢者の生活場面を体験してもらいました。



(栄養学科)「味覚検査」の様子です。自分の舌を検査し、減塩の方法等が学べました。

国家試験対策(理学療法学科編)

理学療法学科では全教員で国家試験のサポートをしております。4年前期は学外での長期実習がありますのでそれが終わる7月中旬にクラスから国家試験の委員を選出してもらい、模試のスケジュール等を決めて行きます。11月までは卒業研究があり、各教員が2、3名の学生を指導しておりますので、指導教員を中心に勉強や生活状況を把握してもらっています。そして卒

業研究の発表が終わった後から本格的に模擬試験を実施することになります。模擬試験は全部で10回程度実施するのですが、その結果を会議で報告して全教員で情報を共有し、点数が伸び悩んでいる学生がいれば個別的に助言をします。教員一丸となって3年連続合格率100%を目指したいと思います。



就職セミナー

就職活動セミナーは外部講師を招き、学年別テーマに沿って年間約10回開催しています。

就活直近の4年生向けは前期を中心に就職活動に沿ったセミナーを、3年生向けに前期は「ビジネスマナー」「自己分析」等就

活対策を、後期は「応募書類の書き方」「面接の受け方」等就活に役立つものを、1年生向けには「専門職に携わる者としての心構え」、2年生向けには「就職活動の全体像とキャリアプラン」等の将来の就活を意識したものを実施しています。



専門職に携わる者としての心構え(7月1日開催)



講師の先生方



面接の受け方(5月14日開催)

地域の保健・医療・福祉の質を向上できる人材の育成と輩出

就職は一生を左右する大きな決断です。学生も、就職先も、双方が満足する就職ができるように、本学では就職対策委員会が中心となって、セミナーや体験談の講話、病院・施設を集めての大学独自の就職説明会、経験豊かな教員による個別相談・指導など、丁寧な支援をしています。その成果もあり、就職率の高さは本学の大きな「強み」となっています。本学出身の卒業生には「信頼のおける、心優しい、実力のある人材である」との好評価を耳にします。そして、このような卒業生の活躍の成果で、在校生の就職先が確保されるとい、好循環となってきていると感じます。

本学は公立大学法人であり、青森県の保健・医療・福祉の質の向上のために様々な活動を展開しています。学生のカリキュラムの中でも、他学科と交流しながら地域を知り、地域の方々をケアする演習を強化しています。教員は、地域との共同研究や、地域の方々に対する講演等での知識提供や専門職のキャリアアップを支援する社会貢献活動を行っています。この成果として、県内の専門職の方々から頼られる大学になってきていると自負しております。

卒業生が県内施設に就職してくれることは、私たちと同じ志を持って、地域を盛り立てていく仲間が増えるということです。

学生部長 角濱 春美

青森県は多くの健康課題を抱えています。それだけ、課題解決のためにチャレンジしがいのある地域でもあります。是非、青森県に就職、または、Uターンしていただき、大学とつながりをもってキャリアアップしていただきたいと望んでおります。



県内就職説明会の様子

さらなる飛躍に向けて(大学院での研究)

看護学分野

教授 上泉 和子



看護管理学(博士前期課程)履修の院生と

看護マネジメント領域は、看護ケアの質の向上をめざして、ケア提供の仕組みやケア提供者の資質向上を図るにはどのようにあたらいいかを探求する領域です。これまで博士前期課程が26名、博士後期課程は8名が修了し、教育、管理領域で活躍しています。研究テーマは様々ですが、最近の研究論文では、「看護ケアのアウトカム(成果)に影響を及ぼす要因の分析」や「看護職の仕事と生活の調和(ワークライフバランス)」の研究などがあります。

理学療法学分野

教授 岩月 宏泰

私の研究室では運動学や運動生理学の視点から身体運動の科学を研究しています。現在、ここには後期課程2名、前期課程2名が在籍しており、研究、論文執筆に勤めています。4名とも順調に研究が進み、無事中間発表を終えたところです(写真は前期課程の2名)。彼らの研究内容を紹介すると、後期課程2名は脊髄運動ニューロンの興奮性に関する解析を、前期課程2名は運動の練習方法の比較や足底板使用時の歩容分析を行っています。これからの活躍が楽しみです。



博士前期課程の越後あゆみさん(写真右)と坂本麻結さん(写真左)

地域保健福祉学分野

教授 出雲 祐二



地域保健福祉学領域は、地域の保健・福祉課題の解決に向けた研究に取り組んでいます。日本の中でも青森県は超高齢社会の最先端に位置し、平均寿命が最下位の短命県であるとともに、生活習慣病や要介護高齢者の問題など多くの課題を抱えています。私の研究室では介護サービスや介護予防の研究、また家族介護の研究を行っていますが、今年度の博士前期課程の院生は認知症高齢者に対するケアシステムの構築に関する研究に取り組んでいます。

健康栄養科学分野

教授 佐藤 伸

妊娠期や授乳期の低栄養や過栄養は、成長後の肥満や糖尿病などの発症のリスク要因となることが知られています。私たちの研究室では、大学院生とともに、将来の起こりうるかもしれない肥満や糖尿病の発症を防ぐ食品成分の探索とその作用機序に関する基礎的研究を行っています。現在、お茶の中のある種の成分に着目し、解明のための糸口を得ています。その成果を公表し、県民をはじめ、国内外の人たちに役立てばと研究を進めています。



実験中の片岡沙織さん(博士後期課程)

地域連携・国際センター

地域連携・国際センターは、本学の教育理念である社会貢献とグローバル化へ対応するため、①地域連携科、②研修科、③国際科の3科で構成しています。地域連携科は県民を対象とした生涯学習、各種イベント、ボランティア活動等を、研修科は専門職を対象とした講座・研修を企画実施、国際科は海外高等教育機関との国際的交流を展開しています。

地域連携科 ケア付き青森ねぶた

平成 20 年度から大学全体でケア付き青森ねぶたを応援しています。今年度も本学共催で第 20 回ケア付き青森ねぶたを実施し、学生 83 名、教職員 29 名がボランティアとして参加しました。ボランティア養成講座(単位認定講座)、オリエンテーション、直前説明会、各班の顔合わせを経て、障害を持つ参加者を全力でサポートしました。また、昨年度に引き続き、吹奏楽サークルが出陣前の発表を引き受けてくれたのに加え、今年度は、書道サークルも発表を引き受けてくれました。活動終了後には報告会を開催し、ボランティア活動を通じて学んだこと、感じたことなどを発表し、来年のボランティア参加に役立てました。



地域連携科 公開講座

開学以来、毎年度公開講座を開催しています。今年度も5月23日から隔週土曜日に開講し、全5回、延べ1,295名の方にご参加いただきました。うち1回は、青森商工会議所と共催で、「まちなかキャンパス」として青森県観光物産館アスパムで開催し、1回はむつ市で開催しました。また、7月4日の第4回公開講座では、「健やか力(ヘルスリテラシー)向上サポート宣言」スタートアップフェスタを同時開催しました。



国際科 米国ベレノバ大学との国際交流

平成 17 年度から国際交流を実施している米国のベレノバ大学とは、平成 28 年 5 月に交流協定の満期を迎えるため、平成 27 年 10 月 26 日～30 日の期間で学長と国際科長がフィラデルフィアにあるベレノバ大学を訪問しました。両大学の交流協定の更新に向けた協議の後、新たな交流協定書の調印式が行われ、引き続き両校が国際交流を実施していくこととなりました。また、学内の施設(シミュレーションラボ等)を見学し、授業や実習の取り組みを説明していただき、次年度は 10 名程度の学生研修の受け入れを確認してきました。



健康に関する県内各種イベントにも出展しています。

出展に関するお問い合わせ

青森県立保健大学地域連携・国際センター ☎017-765-4085

研究推進・知的財産センター

研究推進・知的財産センターは、学内外の諸機関との連携を図りつつ、本県の地域特性に即した保健医療・福祉分野に関する研究をはじめとする学際的、総合的な教育研究を推進し、県立保健大学の学術研究水準の向上、地域における保健医療・福祉の向上に寄与することを目的としています。

大学は美味しい!! フェア

- 期間** 平成 27 年 5 月 28 日(木)～6 月 2 日(火)
- 会場** 新宿高島屋 11 階 催会場
- 概要** 「もち小麦」「アピオス」「ガズミ」使用商品の試食販売 (栄養学科 藤田 修三教授、岩井 邦久教授)



フードシステムソリューション 2015

- 期間** 平成 27 年 9 月 30 日(水)～10 月 2 日(金)
- 会場** 東京ビッグサイト 西ホール
- 概要** もち小麦に関する研究成果の展示及び関連商品の試食提供 (栄養学科 藤田 修三教授)



道の駅ろくのへ秋の感謝祭

- 期間** 平成 27 年 10 月 25 日(日)
- 会場** 道の駅ろくのへ
- 概要** もち小麦に関する研究成果の展示及び関連商品の試食提供 (栄養学科 藤田 修三教授)



おいらせ町観光 PR センター味祭館感謝祭

- 期間** 平成 27 年 10 月 31 日(土)
- 会場** おいらせ町観光 PR センター味祭館
- 概要** アピオス・ガズミに関する研究成果の展示及び関連商品の試食販売 (栄養学科 岩井 邦久教授)



2015 年度青森県保健医療福祉研究発表会 日本ヒューマンケア科学学会第 8 回学術集会 日本医療・病院管理学会例会 合同集会

本学では、本県の保健医療福祉の向上を目的に、本学教職員・学生及び県内の保健・医療・福祉に従事する方の研究成果を発表する場として、例年「青森県保健医療福祉研究発表会」を開催しており、県内関係者の御参加をいただいています。

2015 年度は、日本ヒューマンケア科学学会様、日本医療・病院管理学会様と合同で開催する運びとなりました。シンポジウムテーマは「ヘルスリテラシー向上をめざして」です。

- 開催日時** 平成27年12月19日(土)
9:50～17:00
- 会場** 青森県立保健大学(A棟1階)

保護者等(後援会)懇談会

保護者等(後援会)懇談会は、保護者の皆様と大学との情報交換及び相互理解を目的に後援会主催で開催しております。

今年度は大学祭の初日10月10日(土)に開催し、56名の保護者の皆様のご参加をいただきました。全体会で教育活動状況、学生生活支援、就職支援状況等について本学の現状を説明し、その後、各学科に分かれて説明会・個別相談が行われ、活発な質疑応答があり相互理解を深める一助になったと思われま



上泉学長の挨拶



高田後援会長の挨拶

健やか力(ヘルスリテラシー)向上サポート宣言及びそれに伴う活動

ヘルスリテラシー(以下、HL)とは、つづめて言うと、自分に合った健康情報を「さがして・わかって・つかえること」で、県では「健やか力」と表現しています。今年度初頭、当学学長が「健やか力(HL)向上サポート宣言」を行い、その中で、当大学がめざすこととして、以下の5項目を挙げています。

- HL向上をサポートできる知識をもった人材の育成
- 地域と協力し、学生が行う演習や実習等の活動を通して地域に参画、また、地域住民を対象とした公開講座、研修会等を通して、地域のHL向上に貢献
- HLに関する研究開発事業を通して、知識を還元
- 様々なイベントや取り組みを通してのHLの普及
- HL向上知(地)の拠点となる

青森県は2013年に「健康あおり21(第2次)」を策定し、「県民のHLの向上」を主要な柱としましたが、その流れを汲み、大学もHL推進事業を昨年度構想、今年度より本格的に実施しているわけ



です。今年度は「健やか力(HL)向上サポート宣言」スタートアップフェスタを開催したり、HL向上サポート活動案を学生・職員より募集するなどの取り組みを実施しました。眼目の、次期大学院カリキュラムの編成についても、HLを組み込み現在検討中です。今後も様々な視座で広角的に、HL向上活動を推進していくこととして

スタートアップフェスタ

平成27年7月4日(土)に実施し、骨密度、血管年齢、血圧の測定ブースを設け、測定結果について本学教員から説明を行いました。また本学における食品の機能性研究の成果及び企業との連携により開発された商品の展示、試食を行いました。



大学祭

本学4学科が集結し「チーム健やか力」として、血管年齢測定(看護学科)、骨密度測定(理学療法学科)、認知症簡易テスト(社会福祉学科)、「食育SAT(サット)システム」による普段の食事の栄養価等の測定(栄養学科)を実施するとともに、HL向上サポート活動として認定した活動の中間報告を行いました。



発行：青森県立保健大学 広報委員会・青森県立保健大学 後援会